

B 財務・会計

【総評】

令和6年の本試験は、財務会計25問(昨年25問)のうち、アカウンティングが13問(昨年14問)、ファイナンスが12問(昨年11問)であり、例年とほぼ同じような出題構成になりました。また、5肢択一の問題は1問(昨年1問)であり、例年とおりました。また、計算問題は8問(昨年10問)出題されており、例年より若干減少しました。

・当年の難易度

過去との類似問題や頻出論点が多く出題されたことから当年の財務・会計の難易度としては標準的なレベルであったと思われます。一方で、計算を要する問題に限って考えると、その数としては例年より若干少なかったものの、一つ一つの計算が複雑なものとなっていたことから、難易度としては比較的難しいレベルだったと言えるでしょう。

合格点を確保するには、例年同様に基本的な知識で解くことが可能な問題で確実に正答を積み重ね、計算問題でいかにミスなく得点を伸ばしていけるかがポイントとなりました。

・新傾向や特筆すべき出題

(アカウンティング)

アカウンティングの分野では、勘定科目の説明や会計基準に関する記述を問う問題など、知識を問う問題が多くみられました。(例えば、第3問:「金融商品に関する会計基準」に関する記述、第6問:貸借対照表の表示、など)一方で、例年より計算問題が少なかったことが特徴です。(第7問:営業活動によるキャッシュフローの計算、第12問CVP分析)また、財務指標を用いた分析問題が1問だけ(第11問)と少なかったことが特徴です。

(ファイナンス)

ファイナンス分野でも文章を用いた出題が多くみられたものの、単なる知識を問う問題ではなく、第18問:投資プロジェクトの経済性評価や第19問:リスクプレミアムに関する記述、など文章の解釈を問う問題が増えました。また、計算を要する問題(第14問:加重平均資本コストを問う問題、第22問:フリーキャッシュフローを問う問題)は計算量が多く、難易度が高くなりました。これらの問題への優先順位のつけ方が合否を分けたと考えられます。また、令和4年より出題されたサステナブル成長率について問う問題(第21問)は引き続き出題され、例年出題されたMM理論は出題されませんでした。また、第19問においては、問題文の解釈によって、解答が分かれてしまう可能性のある問題でした。

【的中！合格模試】

財務会計の第 12 問(設問 1) は合格模試の第 14 問の損益分岐点売上高、第 13 問は、合格模試の第 18 問の資金調達、第 19 問は合格模試の第 20 問のポートフォリオ、第 22 問は、合格模試の第 16 問の現在価値・複利原価係数の論点でした。STUDYing 受講生においては確実に得点しておきたい問題です。

以上